

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100933		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホーム	こせん	1F
所在地	熊本市中央区壺川2丁目3-70		
自己評価作成日	平成29年2月13日	評価結果市町村受理日	平成29年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本市のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校の教習所に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中学校があり、幼児から高齢者までともに暮らす地域となっている。開設時より地域の皆様や他事業所の方々から様々な場面でお声掛けを頂いている。また、近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、ご利用者とそのご家族が希望される「健康で安心できる生活」に近づける支援体制となっている。沢山の方々を支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも大家族の一員となれるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年度は家族参加型のホーム運営を更に向上させ、普段の行事へ入居者と共に参加してもらうことで直接的な意見の引き出しに効果があがっている。運営推進会議では参加者の意見を受け、避難訓練とソーマン流しをタイアップし、入居者の中に入れてもらうことでホームの現状を間近にみてもらい今後の会議へ連動させている。こうした取り組みは職員の提案から生まれており、管理者は職員の視点から見たホームの“今”を大事にしたいと語り、理念についても全員の総意として現在のままでよいという結論に達している。入居者一人ひとりが持ち味を生かし、調理や家事に関わり、年齢を感じさせない歌声で両ユニットを和ませる方、見知らぬ来訪者にも昔話を面白おかしく話される方など、ホームでの安定した生活ぶりが窺える。体制の移行期にあたり、これまでの管理者の取り組みを継承しつつ、新しいカラーを出していきたいとするスタッフの、若いエネルギーが伝わる訪問であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者個々出来る事をやって頂き、家族の一員としての役割を持って頂ける様努めている。又、支援については話し合い、職員間で情報を共有している。	開設時からの理念をホームの基本方針として、各職員が入居者のケアにあたっている。法人が理想とするおむつ外しや夜間入浴へのこだわりを継続して実践し、自宅に近い環境を整えながら、入居者が自ら調理や家事に役割を持ち、ホームの一員として生活するよう導いている。	新年度をスタートするにあたり、この一年に入職した職員を交え、勉強会の中で理念をしっかり捉えるよう、共有の機会を持っている。今後は更に地域へ向け、パンフレットへの掲載や、運営推進会議での啓発、会議場への理念の掲示などに取り組みされることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、季節毎のイベントで交流が図られている。	以前より自治会に加入し、地域情報の収集が出来ている。小学校での夏祭りには夜間帯の外出が実現し、月見会ではホーム駐車場より秋の夜を鑑賞している。隣接する自動車教習場での餅つきや、フリーマーケットへの開催時には家族の参加も得られている。天候を見ながら近くの川沿いを車椅子やバギー車を押して散歩し、地域の人々と気軽に挨拶を交わしながら、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域を対象に「認知症と家族の会」の講座を開催した。認知症への理解と家族の思いが理解出来る機会となった。今後も継続して、情報を発信していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	こせんの行事である、ソーメン流しや、避難訓練に参加して頂いた。評価は今後活かしていく。	行政関係者や地域・家族の代表者が参加し、開催されている。昨年の参加者意見を受け、本年度は共にホーム行事に関わってもらう様、当日に避難訓練とソーメン流しを計画し、訓練では入居者の表情や動きを直に見てもらい、同じ食事を摂る事で一体感が生まれ、会議に対する認識も更に深まっている。	会議内容は玄関口に置き、家族や来訪者に向け開示している。今後は、会議案内を全家族へ通達し参加を呼びかけたり、管理者以外の職員も短時間でも会議に同席し、参加者の生の声を聞くことも必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本年度は【熊本震災】がありそれに伴い受け入れなどの際、市町村の担当者と連携を取り、協力関係を築いている。	昨年の熊本地震の際には直後に行政からのヒヤリングに応じ、状況説明を行なっている。強固な建物は大きな被害もなく、被災した住宅に住めなくなった地域住民を受け入れ、空き室を利用してもらいそのまま入居に至るなど、包括との連携も友好的な関係にある。また、行政の指導を受け、昨年9月には重要事項の改定を実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為や、弊害について学んでおり、拘束のないケアに取り組んでいる。必要が生じた場合でも代案となる方法やケアについて検討をし、拘束しないケアを探っていく。	法人全体で身体拘束排除に向け取り組んでいる。その大きな柱であるおむつを使わないケアは特別な場合を除き、入居者への尊厳を重んじ、布パンツでの生活を日々支えている。また、スピーチロックについて時間をかけ勉強会を開いたり、職員のストレスチェックを実施する等、拘束0を焦点においた体制作りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き虐待についての見識を深めている。日常では常に相手の立場に立ったケアを心掛けると共に、職員間でも余裕を持つように協力し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	連絡協議会主催の研修会に参加し、受講したスタッフによる伝達講習を行い、経験の浅いスタッフを含め、権利擁護について理解できた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、金額やサービスの内容を十分に説明をし、又、不明な点や心配事等は何時でも相談できる体制になっています。改定の際は、書面などで説明を行い、納得を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様の食事の好き嫌い・趣味・好まれない事・体調面等の情報を収集しスタッフ間で確認している。入居後も日々の記録を通し、早急な対応に繋げている。又、暮礼ノートを活用しスタッフ全員が情報共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には事前訪問を行ない、本人様の生活状況や、体調面を把握し、又、家族には施設の見学に来て頂き、要望などの相談にあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族の要望を聞き、支援を行っている。又、体調の変化があった場合協力医に相談し、病院受診に繋げている。必要な場合は他のサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日と一緒に過ごす中で、昼食作りの野菜切り・洗濯物たたみ・歌や体操等、利用者様一人ひとりの能力に応じて、役割を担って頂き、居場所作りに繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各種イベント事にご家族をお誘いし、利用者様・ご家族と一緒に楽しく過ごして頂ける様、支援を行っている。又、参加できないご家族には、イベントの時に撮った写真等を、面会に来られた時に見て頂き様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の昔の仕事や好きだった事をお聞きし、土いじりが好きな方には菜園や畑を設置したり、買い物が好きな方には定期的に買い物に行ったりと馴染みの雰囲気を感じて頂くように努めている。	家族や友人・知人の来訪時はゆっくり過ごしてもらえよう努め、大切な関係が途切れない様次回の訪問を依頼している。また、菜園作りや買物などこれまでの趣味や楽しみごととも継続している。家族と一緒に好みの食事処や馴染みの理美容室へ出かけられる方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションの際、個々の能力に応じた楽しみが出来る様声掛けを行っている。又、食事の席も気の合う人同士とし、孤立しない様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院になり退所されたご家族と、これまでの関係性を保ち、契約終了後もイベントに参加してもらったりして、交流を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個々に好みがありレクリエーション時に取り入れている。歌や花など関心のある事を中心に実施。又、困難な方の場合もご家族様に好きだったもの等をお聞きし、居室への飾りつけ等に活かしている。	職員の気づきなどは自身だけがわかっているのではなく、些細なことでも全職員で共有し、その方の望む生活に繋がられるようにしている。また職員間の周知は、家族の来訪がいつあっても質問などへの回答ができ、信頼関係が築かれている。意思表示が困難な方には、スキンシップから判断したり、家族から得た内容をもとに本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の基本情報・ご家族からの情報・生活をされていく中でのスタッフからの情報を基に、これまで暮らしてこられた環境との相違点を見い出し、出来る限り段差のない生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の利用者様の情報をケース記録に残す事は勿論の事、日勤・夜勤者間での申し送り現状の把握に努めている。又、日頃からスタッフ間での会話も情報共有に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なホーム会議・勉強会という機会に情報の共有をしっかりと行っている。水分補給や経口からの栄養補給の状態などで、必要とされる場合はご家族と話し合い、理解して頂きそれをもとに介護計画の作成をしている。	本人や家族、職員の意見などを活かしたプラン作成が行われており、内容を全員が共有し支援にあたっている。また、身体状況からプランの見直しを行う際も、医師の意見や家族と十分な話し合いをし、現状に即したものとなるようにしている。今後担当に当たるプラン作成者は、家族に説明する際、わかりやすい言葉で提案や説明を行いながら進めていきたいとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中から、利用者様個人の情報をスタッフ間で共有し、統一したケア提供に心掛けている。更に、スタッフの様々な気づきが介護計画見直しに繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一昨年より取り入れているマッサージ等はもとより、病院受診で習得した筋力勉強法等は、その方だけではなくレクリエーションに取り入れ、入居者様に実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、小学校の夏祭りに出かけ、子供さん達と触れ合ったり、歌・踊り等を一緒にに行い楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の説明を行った上で、他に希望があれば、係りつけ医を決めている。協力医は、定期往診以外にも随時対応して頂いている。又、休診日や夜間にもオンコールでの対応が可能である。	家族の希望を確認しながらかかりつけ医を決定している。殆どの方が協力医による月2回の往診や、他の医療機関へ家族により受診支援が行われ、緊急時は全員協力医で対応されている。往診前日には協力医の看護師が訪問し、血圧測定をはじめ、職員からの聞き取りが行われスムーズな診療に繋がっている。急変時の対応については確認書を作成し、随時取り直しや家族への聞き取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師不在のため、介護職より協力医へ相談を行い、協力体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、ホームでの生活や利用者様の情報を文書にして提出している。必要ならば看護師・OT・PT・SWとも情報を共有して、1日も早い退院に努めている。又、退院後ホームのハード面を伝え、本人様の退院後の生活の上でのアドバイスを頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針など説明をし、確認している。病状や状態等が重度化した場合は、状況に合わせ、ご家族・医師・看護師・スタッフと早期に話し合いをして、今後の方針を決めている。又、後悔の無い終末期を迎えられる様、心掛けている。	入居時にリスクと重度化に関する指針、事前確認書の説明を行い、そのような状況になった時点で、医師を含め家族と話し合いの機会も持ち、今後の方向性を決定している。職員は日頃から本人・家族の思いや意向を十分汲み取りながら、今できる最良の支援に努めることを共有しケアにあたっている。重度化しても決して居室にこもることなく、入居者同士の声かけや、手を取ったり肩に手を当てるなど、自然なスキンシップの光景が、ホーム全体に温もりが伝わって来るようであった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会にて急変時にはどの様に対応するか、又、夜間は夜勤者2人体制なので、オンコールは誰が対応するか等、随時確認を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に(年2回)避難訓練を実施し、地域の方々にも協力して頂き、取り組んでいる。実施後は、業者やボランティアの方々から意見を頂き、反省点に繋げ今後の対策として取り入れている。	今年度は7月と12月には運営推進会議メンバーも参加して火災の避難訓練を実施している。訓練後は参加者からの意見などを今後に活かしている。各ユニット毎の入居者の状況に応じた避難・誘導についての意見や提案、業者による専門的なアドバイスなど議事録から確認された。安全チェックについては夜勤者を中心に行われている。備蓄は、停電に対するリスクを想定して準備している。	管理者は今後風水害についても訓練の実施を語っており、実現に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に勉強会を開き利用者様を「ちゃん付け」・「友達扱い」していないか、トイレ誘導時ドアを毎回閉めているか等、スタッフ同士で意見を出し合い意識を高めている。	ホームは法人の取り組むおむつ外しをはじめ、入居者の尊厳に配慮したケアの実践に努めており、勉強会などで守秘義務の徹底も含め定期的に周知を図っている。入居者の誕生祝いはその方を大切にしたいと、当日に手作りケーキで祝っている。呼称は苗字や下の名にさん付けとし、同性介助を基本としているが、入浴は夜間に取り組んでおり、勤務体制や安全面などから了承のもと男性職員も支援している。居室に入る際は、その方の部屋であり、在室の有無に関係なくノックを徹底し、個人情報の使用については同意を得、面会簿も個別記入としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション時の体操や歌、又日常的には台拭きや洗濯物たたみなどで得意分野を見つけ出し、自分で進んで決定できる様、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員同士連携を取り合い、スタッフの仕事量を分担し、余裕を持ち利用者様に対応している。入浴時間や好きなテレビなど、本人様の希望に出来るだけ添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回外部から美容師を招き、カットをして頂き、希望があればカラーも取り入れている。利用者様同士で髪の毛を梳いたりされる姿もある。外出の時には衣服の着替えや、お化粧をするなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのものを把握しながら、出来そうな方には、一緒に食事の準備をして頂く。片付けが出来る方には手伝って頂いている。	献立は各ユニットで旬の料理や入居者の希望を取り入れながら作成し、入居者も皮むきや切る・すり鉢の使用、包丁を使わない作業など、できることで食への関わりを持っている。ホームの食事は盛りつけや配色にも配慮し、おしゃべりを楽しみながら進められており「わ～綺麗かね～！」「今日のは塩気が足りんごたる！」など、職員と共に楽しむ日常の食事光景が見て取れた。家族会の中で食事を提供し、日頃のホームの食への取り組みを知ってもらおうこととしている。	庭先に植えられた桜の開花を入居者は楽しみにされており、今年も花を愛でながらお茶や食事を楽しんでいただきたい。また、ユニット間で御汁などのおすそ分けも行われており、提供する前には必ず味見をすることが必要と思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	たくさん野菜を使うなど、栄養バランスに気を付けている。水分が取りにくい方にはシャーベットを作り、水分摂取への工夫を行っている。又、家族の方にプリン・ゼリーや嗜好品を持参頂き、協力も頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、一人ひとりの力に合わせ声掛け、見守り、介助を行いながら毎食後行っている。週に1度のポリドント洗浄も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導ノートにて、本人様の排泄時間を確認しながら、誘導を行っている。排泄が、一人で困難な方には、付添いを行い、一人で出来る方には、さりげなく見守りを、行うようにしている。トイレでの、排泄に努め、布パンツや、パットを使用し、本人様が、気持ちよく、過ごして頂けるよう、支援している。	個々の排泄状況を共有し、布パンツを基本としており、リクライニング使用になられてもパットを併用して支援している。熱発などで体調が優れない時はリハビリパンツを使用することもあるが、家族へも報告をしている。日中できる限りリビング食堂で歌や談笑をしたり、散歩など体を動かすことや、食事、水分補給(お茶・牛乳に氷など)により自然排便に努めている。また、トイレ内は何時でも気持ちよく使用できるよう、掃除や小まめな確認を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々起きて過ごすことが、便秘予防につながっている。排泄困難な方には、水分補給や料理で工夫し、自然排便に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は、決まっているが、本人様の、体調や希望により変更したり、入浴拒否の場合、無理強いせず、時間をずらし、声掛けを行っている。	入浴は夜間入浴を基本とし、週3回(1階は月・水・金、2階は火・木・土)準備しており、入れなかった時は、日曜日や双方のユニットの垣根を越え、楽しめるようにしている。入浴はゆっくりとした支援を心がけ、端午の節句での菖蒲湯や冬至期のゆず湯など季節湯に取り組んでいる。また、体調に応じて清拭や皮膚疾患時は朝から洗浄や薬の塗布など、個々に応じた清潔保持が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様1人ひとりの夜間の睡眠状態が違いため、日々体調や希望に応じ、自由に休息して頂いている。日中に活動を促し、生活リズムを作り、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は、職員が、いつでも確認できるようにしている。変更が、あった場合、情報を共有し、服薬後の、観察や、記録も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の、得意な事を、把握して、畑や花の世話や、楽器の演奏等、個々に応じた楽しみや、役割を持って頂くように、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望があれば、家族と相談し、職員と一緒に、個別に買い物に出かけている。地域で行われている、夏祭りや餅つきに、家族と連絡をとり外出できるように支援している。その際は、地域の方々に協力頂いている。	庭先に出て外気浴や球根・花の苗植えをはじめ、河川敷に近いホームは、季節や天候の良い時は努めて散策を兼ねて散歩に出かけている。また、家族の協力による受診や外食、祭りやイベントなど地域の情報を得ることは、入居者の外出を後押ししており、可能な限り出かけるようにしている。入居者の身体状況もあり、全員で出かける機会は困難になっており、個別での買物支援などに取り組んでいる。外出の機会が少なくなって来た方もおられ、ホーム内に草花や貼り絵などから季節を感じてもらえるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者様やご家族様の理由に応じて管理している。ご自身で管理できる方や、所持できる事で安心出来る方もおられる。金銭管理の出来る方はご家族の希望により預かり、希望に応じて職員と買い物に出かけたり、食事に行ったりもしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族様への年賀状に利用者様の顔写真やスタッフの言葉を添えて送っている。又、希望があればご本人に代わり、ご家族に電話をし取次ぎをしている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関や廊下には季節に合わせて飾り物や行事の案内がしてある。ホールには入居者様が庭から紡いできた花を花瓶に挿してあり、又手作りされた作品が季節毎に並ぶ。台所も対面式になっていて何時でもお手伝いして頂ける様にしている。</p>	<p>外出が困難になった入居者にも季節を感じてもらえるよう、窓を開け外気を入れたり、敷地内に咲いたものや職員も気がけて草花を持ち寄っている。また、桜の写真や絵を掲示し、開花までの気分を高めている。台所の音や匂いは、食欲やその日のメニューを想像するなど、会話を弾ませる一つとなっている。コンサート会場のように歌声の響くユニット、入居者同士や職員とのやり取りが、いつの間にか笑い声に変わるユニットなど、居心地のよい時間が流れていることが伝わってきた。</p>	<p>ホーム内は臭気もなく清潔に管理されており、今後は洗面台や段上がりの畳の間など、不要なものがないか、整頓の機会を持たれることを期待したい。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにはテーブル席とソファ・畳の間があり、テレビを観たりゲーム・体操・音楽を聴いたりして過ごされている。独りのほうが落ちつかれる時もある為、他のテーブルで過ごせる様にした上で、見守りや、声掛けを行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族様が配置された思い思いの写真やお花が飾ってある。居室でピアノを弾いたり、花壇を造ったりと利用者様の趣味を活かし過ごせる様にしている。	入居時には他の部屋(空き室など)を見てもらい、間取りなどを確認してもらうようにしている。本人の使われていたものや必要な物を準備してもらいたいことや、テレビなど電化製品の使用時は有料となることも申し添えている。居室には洗面台を備えているが、見守りが必要な方は、リビングの洗面所で歯磨きなどを支援している。震災後は、特に安全面への配慮から、ベッドの位置や高さなどの見直しが行われている。どの部屋も整頓され、本人の趣味や家族の思いが伝わってくる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は、利用者様一人ひとりにあったベッドの高さや配置にしている。タンス類も震災の経験を活かし、高さ等は安全性を考え配置を行った。更にADLや認知症に伴い、安全性を考慮した上で、動きやすい家具や品物の配置に心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100933		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホーム	こせん	2F
所在地	熊本市中央区壺川2丁目3-70		
自己評価作成日	平成29年2月13日	評価結果市町村受理日	平成29年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本市のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校の教習所に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中学校があり、幼児から高齢者までともに暮らす地域となっている。開設時より地域の皆様や他事業所の方々から様々な場面でお声掛けを頂いている。また、近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、ご利用者とそのご家族が希望される「健康で安心できる生活」に近づける支援体制となっている。沢山の方々を支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも大家族の一員となれるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に挙がる地域との連携を図りながら定期的な行政や地域包括センターや民生委員との話し合いを行いながら、月2回の幹部会議での理念に元づく方針の基礎をつくり。施設内での月例の職員会議にて理念に沿った個々の目標を持ち、それを達成のための計画を作成する。会議では意見交換しながら各々の目標達成するためのことを実践に生かし共有できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや近隣施設のお祭りに参加しました。外出する際は、なるべく車いすを介助したり、バギー車を押してもらうようにして沿道の草花と触れ合うことのできるような工夫をしてきました。利用者の高齢化に伴い限られた利用者ではありますが、事業所周辺のゴミ拾いなど行い地域に貢献してきました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護実践者研修や認知症サポーター養成講座など受講機会を通して学び、民生委員さんをはじめとして地域の方々の情報交換を行いながら認知症への理解を深め地域ケアの向上を目的に啓発活動ができるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者は、利用者の家族とその代表および利用者や職員代表に参加していただき、意見や希望について話合う場として設けてあります。話し合いを運営に反映し、よりよい生活を送ることができるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の職員との意見交換としては、市職員および地域包括支援センター長に参加してもらい会議のなかで、施設での取り組みや事業所の運営状況など情報交換を行い、指導や助言をいただいている。なかでも問題が起こり、その相談窓口として柔軟に対応してもらい協力をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束廃止委員会を中心にベッドの配置や柵の使い方、日常の声掛けなど「ちょっと待って下さい」など普段行われている介護を見過ごしているところを問題視し、物事の緊急性を踏まえて、「少し待つことができますか」「何分後に行きますので待つことができますか」など依頼する側の立場となり対応を行うことに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の講習会に参加したことを職員全員に伝達講習して、虐待の防止について学び合いホームでの実際行っている対応の事例をあげ、その一つ一つについて全員でディスカッションしながら自分たちのやっている事が虐待と背中合わせであることを考えた。虐待の種類や通報義務や罰則規定等について周知を図り地域包括支援センターの役割について学ぶ。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について行政が行う講習に参加し、その参加した内容についての伝達講習を行い、管理者および職員全員が勉強会に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見人制度の内容の把握に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は、重要事項説明書および運営規定の説明および同意を得ており、専門用語など極力使わない様にして利用者や家族が納得いくように説明している。運営上の変更、利用料や法改正についてもその都度説明する機会を講じて懇談会などを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の参加者は、家族会の代表およびご家族と利用者と地域の行政の方々に参加していただき、職員を代表する者と運営上の行事や交流会についての予定の報告や施設での取り組みなどに対する意見交換、認知症ケアネットワーク作りに関する情報交換や意見や希望について話合う場として設けてあります。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案事項の内容を業務カンファレンスや日常業務の中話会い、職員全員で検討した内容を直接管理者に報告して検討と改善を繰り返して、改善策を実施します。現場からの意見を利用者の生活に反映できるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、年間の職員個人が掲げる目標を把握して、その目標におけるスキルアップのための法人内外の研修会の参加を促進しています。個人の目標の達成度も含めて、自己評価や管理者の人事考課を行い総合して個人の資質向上のため環境を整え共生しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者および職員一人ひとりのケアの実情に触れたり観たりしたうえで評価を行い、個々の長所や短所を課題分析することで個人に必要なことや施設に必要な部分を分けて、法人内外の研修や勉強会への参加を行い、士気を保ちながら働き甲斐のある環境を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に加盟することで介護保険の専門性の高い情報の共有や市町村のグループホーム連絡会への参加、また法人内のネットワークをつかうことでの相互協調を得ることができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がここでの生活をどういう風にしていきたいか 話を聞き実現できるように考え どんな風にしたいのか 集団生活についての思い等を 具体的に聞いてみたり 他人のことを例に挙げて わかりやすくイメージできるように 伝え方を工夫したりする。家族には今までの暮らしを伺って エピソード注意点などを聞き取り参考にする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本情報の他に 伝えたいことがないか 多度家族のことも言える範囲で紹介しながら 分かりやすく話しやすい 雰囲気を作り 関係づくりには気を遣い細部に注意し 関係作りを支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の話を十分 傾聴し 必要な支援を提案したり わかりやすい説明に努める 他 事業所(マッサージ等)サービスも 受けられることも伝え 情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気の合う人の近くにいられるように配慮したり 本人様ができることは声かけしたり その都度手伝いお願いし 共同作業を提供する等 生きがいを持てる等支援する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事を通じ 同じ時間を共有してもらい 家族には行事開催をその都度郵送し参加をお願いしている。面会時は一緒にレクレーションに参加して楽しんで頂き 他者との関係もその場でみもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙等が届いたら代読したり必要なら代筆したり 電話等お取次ぎをして側にいて支援する。部屋になじみの物の写真ぬいぐるみ 趣味の品物等 今まで自分の近くにあった品を 部屋に置いていただいている。馴染みの方の面会の際 ご本人が忘れられていても 職員で分かる範囲でその方の情報を伝えてあげ 少しでも雰囲気を感じ取っていただけよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション時にも 違う人同士を隣同士として 会話が弾むように席を配慮したり 利用者様のレベルごとに2種類のレクリエーションを用意している。一人で実施が難しい方はスタッフか手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の際に、ご家族より今までにお世話になったので、今後も行事等がある場合にボランティアとして参加させて下さいと申し出があったり。その場合期日が近付いたときにお知らせをして、行事の際にお手伝いを頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活実践の中で、ご利用者様の過去の話しなどを聞き出し、また訴えについてはしっかりと傾聴を行い、必要性を検討して処遇への実践に結び付けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今年度は2名の新規の入所者があり、生活環境の再整備が必要になったため。ご家族とも面会時に話しと行なって、在宅での生活時に行なっておられたことや、趣味嗜好等話の話題や生活の中での支援のヒントを得るようにしていた。そのひとつでぬり絵を預かり行なっていただく等の支援もおこった。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今年は転倒をきっかけとして、歩行状態に変化の見られた利用者が数名おられ、歩行状態の観察やご家族やスタッフ間の話し合いを持ち歩行器や一部時間の車イスの使用、安全確保の為の見守り体制の見直しを実施。また現状の筋力やADL能力を維持する為に、体操や個別のリハビリ訓練にも力を入れ実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議や勉強会を通じケースの検討を行っているが、ニーズへの対応に遅れる事にもなるため、早急にアセスメントを行ない実行へと結び付けるようにしている。今年度昨年に比べ、意見を言い合っていく機会が増え、実効に移す項目も増加している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAP形式に基いた記録の記述を行なっている。暮礼ノートを用いての情報共有は継続して実施しており、新しく入ったスタッフにも有効である。また疑問に思った記述内容については、引き継ぎの時間に確認や意志統一を図り、次へのステップアップにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	熊本地震を経験し、避難の必要が生じたという新たなニーズに入所者を迎え入れた。またご家族が被災され、県外への避難を余儀なくされるご家族も続出した。その為面会ができなくなった方も多く、電話を通じた近況報告やご家族への心理的なフォロー等も行なって、ご家族の負担軽減にも努めた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の自動車学校や施設、町内からのイベント情報を頂き、外出する機会が増え行事や社会参加の幅を広げている。地域のイベントでは、夜間に行われる場合も多くあり、その場合には安全性を考慮し、主として徒歩が可能な利用者様を中心にご家族のご意向を伺いながら参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週火曜日に、協力医より定期往診を行なって頂いている。今年度は春先に熊本地震をきっかけとして、体調を崩された方もおられ、観察とこまめな連携に心がけた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	またその前日には協力医療機関の看護職が訪問され、血圧測定を実施されている。その際に入所者身体や健康面での状況や変化をお伝えし、協力医からの指示を迅速に仰ぐ事で、体調の悪化と予防に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が病院やご家族と緊密に連携を取り、訪問により情報を収集を行う。ご家族の面会日の時にご意向を伺いながら、現状の状態を共有しつつ退院後の生活像を描いて行くことで、今後の支援の方向性を打ちだしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に急変時の対応や延命処置に対するご家族のご意向を伺っており、万が一ご家族と連絡がつかない場合にも即座に反映させる体制を整え直した。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在は、看護職の配置がないため、勉強会で応急処置、急変時の対応等について学び、夜間帯は管理者を通じ対応できる体制を連絡網を通じて作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年度は4月に熊本地震を体験。即座に避難を行う体制をとり、全員の安全確保に努めた。その後6月に入り豪雨が頻発し、余震の影響を鑑み日中夜間を問わず避難が直ぐに行える体制を取り続けた		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のプライバシーの確保は重要であり、細かな事にも注意する必要がある。利用者にとって排泄が一番気にされる所であり、特に衣類汚染されている方へのこえかけは他者へ気づかれない様充分な配慮を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様は、思いや希望は持っておられるが、それを上手に表現出来ない為、職員は常に利用者様の表現や仕草、発言などを観察し、利用者様の思いを感じ取る必要がある。その上で利用者様が職員に自分の思いを自然に伝えられる様な密接な関係を築ける様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の個々の状況を把握し、体調や本人の意志を尊重している。食事の時間も、同時スタートではなくその方が準備出来るまで待ち声掛けを行なっている。体調により、どうしてもベットでの臥床が多い方へは居室にて音楽を流したりし雰囲気作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問散髪を導入しており、利用者様全員から喜ばれている。本人と家族より、髪を染めたいが美容院へ連れて行けないとの声があり、スタッフ付き添う事で、ホーム内で髪染めして頂き、本人だけでなく家族からも喜ばれている。イベントの際には、ご家族にも利用者様の化粧を手伝って頂き参加されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、昼、夕とホームで食事をする中で、一緒に食事づくり手伝える方は職員が付き添い作業して頂いている。また作業が困難な方へも、ホームで作ることで、食材を刻む音や匂いなどで食事までの時間を楽しんで待つ頂ければと考えている。食事も彩りよく盛り付け目で楽しめる様努めている。一人一人の状態や体調に合わせてながら提供するよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量が少ない方へは飲み物を替えるなどし、時間を決めず細めに提供するよう努めている。水分摂取量の少ない方を把握しその方へはお茶のゼリーやシャーベットを作り提供することで摂取を促している。栄養面でも、ご家族のご協力のもと、嗜好品や食べやすいプリンやアイス等の高カロリー食を持参頂くことで少しでも栄養摂取出来る様支援している。夜間や食前の水分摂取を行い飲水量の増加も見られた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で口腔ケアされ、出来ると思われている利用者様でも必ずスタッフが付き添い、磨いているかの確認を行い仕上げ磨きの確認を行っている。出来るだけ洗面台まで誘導し、声掛けを行い残存能力を活かし自力で出来る様に声掛けを心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	当ホームではおむつはずしを実践しており、全利用者様が昼夜ともパンツで過ごして頂いている。失禁による不快な思いがない様、その方にあつた時間を把握することで、失禁を回避し、快適に楽しく今まで自宅で過ごして頂いた時のような生活を送って頂けるよう図っている。また夜間の排泄支援をして欲しくないという方はパッドチェックを実施し睡眠を妨げないよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の水分補給時、便秘予防としてきな粉入り牛乳を提供し数日排便見られていない方へは、牛乳に氷を入れるなどし、提供の仕方を変更している また 食事でも野菜だけでなく乾物も取り入れ、食物繊維をできるだけ多く取り入れ 緩下剤に出来るだけ頼らないよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	季節に応じた入浴を楽しんでいただくため、ゆず湯や菖蒲湯を行っている 冬は寒いため入浴拒否をされる方もいらっしゃるためヒートショックを起こさないよう、しっかりと浴室を温め 足湯等を取り入れながら温まっていたけよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	当ホームでは 夜間入浴を取り入れており就寝前にしっかりと体を温めていただくことで安眠へとつなげている。冬には湯たんぽを使用し 夏には空調を気をつけながら安眠をサポートしている。排泄介助も不眠の方には効果が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬箱を設置し服用前と服用後の二重チェックを行っている。利用者の身体の変化に気を使い、ドクターの指示のもと薬の変更があった場合にもゼンスタッフが把握できるように墓例ノートと口頭での情報交換をしている。薬の飲み落としのないように飲み込みまでの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の皆様が参加できるような環境づくりに努めている。手の運動を兼ねたボール遊びと風船バレーを全員で行っている。個々のレベルに合わせた洗濯物たたみや食器拭きなどの軽作業を提供しスタッフと共に作業を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームで外出行事を盛り込み花宮初詣などの季節を感じていただけるような企画をしている。また家族の協力を得てパーマや食事などの外出もされており必要に応じて介護タクシーの手配も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年に一度の買い物ツアーを設けており家族に依頼しお金を預かり精算後はすぐに返金を行っている。お金を持つことで安心される方もいるのでその方に関しては紛失しないよう所持金チェックを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様が遠方でなかなか面会に来れなく電話があった時には取次対応を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じての製作や飾り付けを行い季節感を感じていただく。 。夜間帯、個々の個室に濡れタオルを干し、乾燥防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話をする際 スタッフも交え 利用者が話しやすい 気の合った人と席作りを工夫し レクレーションで体操や歌ったりと 皆さまで楽しく過ごせる空間づくりをしている。 。落ち着かれない時 所定の位置からの席移動により 環境を整えていただく。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	週に一度のシーツ交換 毎日の居室掃除を行い 清潔を保つ。ご家族からの 手紙や写真などを飾り 自室で過ごすことが多い方は好きな音楽を流し リラックスできる空間づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の個人の名前札は 文字を大きくして利用者様にわかりやすくしておりトイレのドアに大きくトイレと張り紙することで 場所がわかりやすくしている。		